

Title	企業の社会対応戦略とその実行プロセス
Sub Title	
Author	梶川紀美子(Kajikawa, Kimiko) 和田充夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第676号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0676">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0676</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 企業の社会対応戦略とその実行プロセス

政治・経済・文化において日本企業の持つ影響力は日増しに大きくなりつつある。国際的にも日本企業の行動が注目を集めることの多くなった現状、社会的価値を企業の戦略策定や戦略実行プロセスに組み込むことは不可欠である。にもかかわらず、企業の社会的責任について、具体的な企業行動と結びついた分析がされていない。このような問題意識から、社会適応型の企業行動モデルを提示することが本研究の目的である。

モデル構築に際しては、経営理念の設定が、社会性を意識した企業行動の一つであることに着目し、①経営理念に社会性を形成する要因と②経営理念と企業行動の整合性に影響する要因を明らかにすることで、経営理念がタテマエではなく、ホンネとなる仕組みを解明した。

実証研究の結果、社会における他組織との社会的関係によって生ずる不確実性が、企業の環境認識に影響を与え、経営者の哲学とともに、経営理念の社会性に影響を与えることがわかった。また、経営理念と企業文化・戦略との連関形態が、経営理念と企業行動の整合性向上に効果的であることが明らかになった。それら連関形態は経営理念の制度化や経営者特性、組織特性によって影響を受ける。

本研究では以上の分析に基づき、社会性のある経営理念の設定や経営理念と整合のとれた企業行動のモデルを示し、社会的価値を導入した企業行動の実行プロセスについての提言を行った。